

第23回 ちゅうでん教育振興助成（2023年度）

小・中学校の部 報告書資料

学校名・団体名	幸田町立幸田小学校
コース	学校支援コース
活動・研究のテーマ	未来もおいしく楽しく！ 地域と未来をつなぐ食育活動

〈活動・研究の意義および活動報告〉

1. 活動に至る経緯

「Aさん、ごはんから先に食べないでまずは野菜を食べよう！ 体にいいよ！」

これは自閉症・情緒障害学級に在籍するBさんが、4月の給食の時間においてAさんに話しかけた言葉です。昨年度からBさんはAさんの食べる順番を気にかけていました。クラスが変わり、担任の先生が変わったことで、Aさんの食べる順番が食べたい順になってしまっていることを優しく伝えてくれていました。

日頃から、子供たちは食事に対して高い興味を示していました。「細かくしたら食べやすくなったよ！」「僕は食べる速さをもっとゆっくりにした方がいいかな」「お芋やニンジンからは後から食べるといいんだよね！」などの言葉が日常的に聞こえてきます。その一方で、家庭での食事や間食に関しては、子供たちの気の緩みもあるのか、少し乱れがちであることも保護者との面談等で分かってきました。

現行の学習指導要領では特別支援学級においても自立活動が重視されるということが明記されています。その自立活動の項目の中の一つに【健康の保持】があります。

そこで、本校の特別支援学級では、「自ら考える持続可能な食育」をテーマとして学習を進めていました。

2. 活動・研究の目的（ねらい）

- (1) 食育のさまざまな実践を通して子供自身が自分の健康を意識する。
 - ・パン作り
 - ・野菜作り（手作り野菜、IoT栽培の体験を通した持続可能な農業についての学び等）
 - ・学習内容をまとめ、校内や町内交流会等で発表する。
- (2) 特別支援学級の教員に対する講師からの最新の学びを日々の実践に応用する。

3. 活動時期

【令和5年5月～】

- ・自分たちの育てたい野菜の苗を植える。
- ・食育劇「食まるファイブ」を授業参観で保護者と共に観劇する。

【令和5年9月～12月】

- ・講師の先生方から最新の情報を学び、日頃の実践に応用する。
- ・育てた野菜を収穫し、調理して食べる。
- ・自分に合った楽器（電子楽器（明和電機社・オタマトーン））等を使った合奏の学習を始める。

【令和6年1月～】

- ・校内で保護者向けの演奏会を行う。
- ・パン屋さんを講師として迎え、学校でパン作りを習う。
- ・食育学習のまとめの発表会を行う。

4. 活動内容と子供たちへの効果

(1) 「先生！豆腐ってにくまるかな？」～保護者と教員による食育劇「食まるファイブ」～

特別支援学級に在籍するさまざまな実態の子供たちが楽しく食育を学べるように「食育ネットあいち」の事業の一つである食育劇「食まるファイブ」の上演を行いました。保護者の方にヒーロー役として参加をお願いし、教員が敵役となりました（写真1）。保護者の方がヒーローに扮し、バランスよく食べること、好き嫌いをしないよさを物語を通して伝えることで、子供たちは楽しく食事の大切さを学ぶことができました。

劇の後の給食の時間に、「先生！これってベジまるかな？ほねまるかな？」など、登場キャラクターがどの食材に当たるかを考える子供たちの姿が多くありました。ふだん食べている給食をバランスで見るという見方が子供たちに浸透したことを感じました。また、上演会の後半では間食の在り方について、子供と保護者に話す時間を設けました。おすすめの間食や誤った間食の恐さを伝えることで、家庭で間食について考える機会となりました（写真2）。今までポテトチップスやアイスクリームをたくさん食べていた子が、食べる量を保護者と相談したり、紹介したゆで卵やナッツなどを間食に取り入れたりする子供たちが出てきました。



写真1: 保護者による食育劇

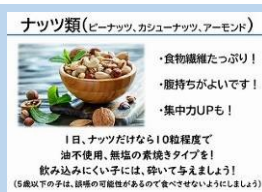


写真2: 間食についてのプリント

(2)「大根、おいしいね♪」～ペアによる自分たちの野菜作り～

子供たちが二人一組のペアになり、自分たちで育てる野菜を決めて5月に畑に苗を植えました。育てる野菜はナスやトマト、オクラ、ピーマン、スイカなどです。ペアで相談して野菜を決めることで、子供たちは毎日をやり、大切に育てていました。7月になると野菜ができて始め、子供たちは大喜びで収穫し、家に持ち帰りました。次は育てた野菜を学校で調理してみんなで食べたいという意見が子供たちから出され、2学期は野菜を育てて調理をして食べようということになりました。そこで、食べたい冬野菜を相談し、大根を育てました(写真3)。調理では係分担をし、上級生が下級生に野菜の洗い方、包丁の使い方を教えながら家庭科で学んだことを生かして、味噌汁をみんなで作りました。ふだんの給食では野菜を食べない子供たちも、「大根、とってもおいしいね♪」と言って笑顔でべろりと食べていました。毎日をやり、手をかけて自分たちだけの力で育てた仲間たちの大根が、今食べた大根であることを伝え、子供たちは更に笑顔になっていました(写真4)。



写真3: 大きな大根を収穫



写真4: 大根の味噌汁を調理



写真5: 水耕栽培キット

また、IoT 水耕栽培キットを活用した水耕栽培も体験しました(写真5)。子供たちは珍しそうに装置を見つめ、「これで野菜が育つの?」「スマホで水の量が分かるんだね!」と驚いていました。野菜も科学技術を使いながら効率よく育てていることを学び、土を触ることが少し苦手な子も、「僕、これならやってみよう!」と興味を示していました。育てた野菜は、「お母さんに食べてもらんだ」と言って家に持って帰ったり、パン教室のウイナーパンの材料にしたりしました。幸田町でも同じ技術を使ったハウスでの実験があることを紹介し、これからはいろいろな形で農業に関われることを子供たちは知ることができました。

(3)「見て見て! 私、自分で作ったパンに顔を描いたよ!」～地元のパン屋さんによるパン教室～

3学期には県内外でも有名な地元の自家製天然酵母を使ったパン屋さんを招いてパン教室を開催しました。イースト菌と天然酵母を使った2種類の生地を使って、2種類のパンを作りました。子供たちは、イースト菌の生地と天然酵母の生地の違いを触ったり、匂いを嗅いだり、色の違いを見たりして五感で感じていました。自分の食べたい具材を選び、トッピングを使ってパンの表面に好きなデザインや絵を描きました。発酵でパンが膨らんでいく様子を観察しながら、パンの作り方やパン屋さんの仕事についての質問をたくさんしました。また、今までの食育で学んだことを生かしてパンと健康について聞く子もいました。パンばかり食べるのは健康にはあまり良くないため、お米も含めていろいろなものをバランスよく食べることの大切さ、健康を意識した体に優しい食材を料理で使うことが大事であることを子供たちは学ぶことができました。焼きあがった自分だけのオリジナルパンを見せ合いながら、みんなで笑顔でおいしく食べることができました(写真6)。



写真6: パン教室

(4)「〇〇さん、のりのりだね!」～オタマトーン等を活用した合奏の学習と食育のまとめ～

今年度の支援学級の子供たちは音楽の好きな子が多くいます。日頃からキーボードやリコーダーを演奏して遊んだり、お気に入りのCDを聞いてダンスをしたりしています。オタマトーンの演奏の様子を映像で紹介すると、「ネットで見たことある! 僕もやってみよう!」という声が上がりました。そこで、オタマトーンを含めた自分の好きな楽器を使い、学級の垣根を超えて三つのグループに分かれ、合奏の学習を行いました。楽器が苦手でもダンスが得意な子は、曲に合わせて振り付けを考え、みんなで楽しむことと見てくれるお客さんを楽しませることを目標に学習を進めました(写真7)。練習を重ね、グループごとのまとまりが出てきたところで、練習の成果を発表したいということで、保護者の方に向けて合奏の発表会を行いました。本番では、お客さんを意識して、自分自身も楽しみながら、仲間との合奏を楽しむことができました。子供たちからは「みんなももっといろいろな演奏したいな」「パンを教えてくれたパン屋さんにお礼の演奏会がしたい」という声が多く聞かれました。また会では、一年間の食育の学びで自分が大切にしたいことをまとめ、仲間と意見交流を行いました。分かったことや食事を考える際に意識したいこと、家で今後取り組んでいきたいことを発表し合いました。



写真7: オタマトーンで合奏

(5) 講師の先生方からの学び

高知大学の是永先生からは、学級を子供の実態に合わせて三つに分けることと、一斉指導の時間と個別支援のバランスの取り方を教えていただき、さまざまな場面で活用しました。また、特別支援学級の子供たちも自分自身で学習の振り返りを行うことがとても大切であることを北欧の実践例を基に教えていただきました。応用行動分析の考え方の活用については、是永先生からは教員向け研修会で障害種別に合わせた実践例を、家庭での応用についての詳しい内容を愛知教育大学の小倉先生から保護者に向けてそれぞれお話しいただく会を設けました(写真8)。学校と家庭で子供たちの支援の方向性を一致させることができました。また、昨年度からアドバイスを頂いている教育実践研究家の菊池先生からは、子供たちを褒めるための言葉の植林、授業場面や日常における子供自身と子供同士による振り返り交流のさせ方、授業の組み立てなどを年間を通して実態に合わせて助言していただきました。特に言葉の植林では「価値語」の指導法を教えてください、教育サークル全国大会で行われたコンクールで発表し、21点中2位を頂くことができました(写真9)。



写真8: 保護者向け研修会



写真9: 講師らによる助言会

5. 今後の予定と来年度以降の課題

今回連携したパン屋さんは、就労継続支援B型事業所を作る計画を現在立て始めており、学校への働きかけも本校の実践をきっかけに町内の他校へも同様の取組を広げていきたいとのことでした。支援を要する子供たちの居場所作りの一つとして、店舗での演奏会も実施してよいとのことだったので、年度末から来年度前半にかけて、買い物学習を行いながら、お店での演奏会を実施したいと考えます。また、個人でまとめた食育の学びを全体でもまとめ、町内の特別支援学級とオンラインでつなぎ、学びの相互交流会を実施していきたいと考えます。